

地域協議会だより

Vol. 36 (2018 年 12 月 10 日発行)

長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会
長野市大字南長野字宮東 452-1
長野県土地改良会館別館 3 階
会 長 赤羽 昭彦

Y 師走の候

今年もいよいよ残りわずかとなってしまいましたが、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今回の協議会だよりは、11 月 8 日(上田市)、9 日(大田市)で開催した技術研修会(水路の目地補修)と 22 日(木曽郡木祖村)で開催した技術研修会(獣害対策)についての内容並びに『飯島町農地・水・環境保全管理協定』(上伊那郡飯島町)の活動組織のご紹介をします。



Y 技術研修会(水路の目地補修)

11 月 8 日(木)上田市(塩田地域自治センター)及び、9 日(金)大田市(花見基幹センター午前・午後)の2会場で、水路の目地補修について技術研修会を開催し、県内各地より 102 活動組織等、述べ 214 名の皆様にご参加いただきました。

研修では、関東農政局土地改良技術事務所保全課小池伸哉係長を講師としてお迎えし、「コンクリート開水路の変状と簡易補修」をテーマとして講義していただきました。また、公募で参加いただいた4社の製品を各会場近くの現場水路でそれぞれ実演・指導していただきました(実践研修)。

8日.上田会場



【 講 義 】 (塩田地域自治センター)



【実践研修】 (下之郷水土里まもり隊水路)

9日.大町会場



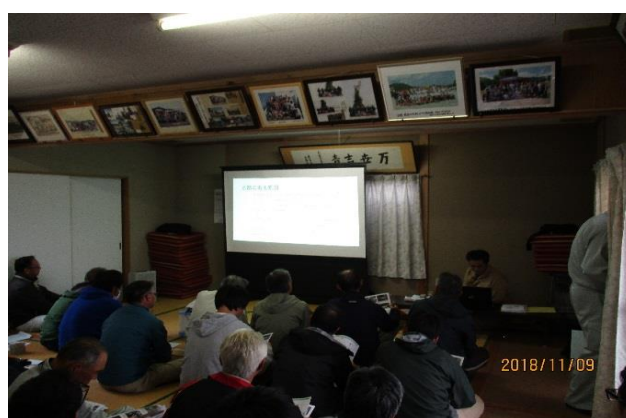
午前【講義】(花見基幹センター)



午前【実践研修】(野口地域保全会水路)



午後【講義】



午後【実践研修】(雨のため、各企業より製品説明)

講義の中では、主として目地の補修を適正に施工する上での留意点等について説明がありました。実践研修では目地補修をトライアン(株)、ホクエツ信越(株)、信越化学(株)、(株)ダイフレックスの各企業の製品を持ち寄り、実演・製品の説明等をしていただきました。

※ 安全対策

補修作業では、コンクリートの切削機械(ディスクグラインダー)など危険を伴う作業があります。また、補修に使用する材料についても、直接肌に触れてはならないもの、引火性の成分を含むものなどの化学物質が含まれています。

このため、作業を行う際は、安全対策をしっかり確保し、火気の取扱に十分注意して実施してください。

また、作業の際の怪我などに備えて、保険に加入しましょう。

ヘルメット



現場作業時は、確実に着用すること

皮手袋・ゴム手袋



回転する機械を使用する際に軍手を使用すると巻き込まれる可能性が大きいため、革製かゴム製の手袋を使用する。



防塵マスク



コンクリート切削の際には着用し、粉塵の吸込みを抑制します。

防護メガネ

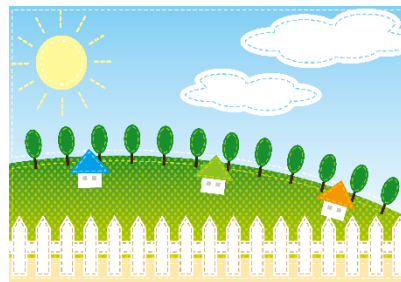


コンクリート切削の際に飛んでくる欠片から目を守る。

Y 技術研修会(獣害対策)

11月22日(木)木曽郡木祖村(村民センター)で獣害対策について技術研修会を開催しました。県内各地より21活動組織等、述べ57名の皆様にご参加いただきました。

研修では、農産物野生鳥獣害被害対策アドバイザー(農林水産省登録)で、長野県農政部農業技術課菅澤勉副主任専門技術員を講師としてお迎えし、「(防護柵の管理と侵入の強化)効果のある被害対策と地域振興のために」をテーマとして講義していただきました。講義に続き現地研修として、木祖村の活動組織、西山維持保全組合の獣害防護柵施設を見学し、講師より現地で技術指導を受けました。



木曽郡木祖村
村民センター【講義】

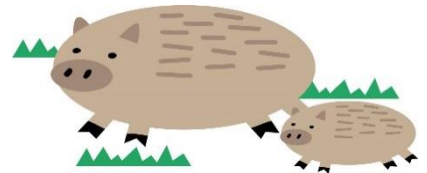


西山維持保全組合【現地研修】



防護柵の種類と特徴

- 物理柵 …… 強度と高さを持った柵により動物の侵入を防ぐ。
動物に併せた高さ・強度が必要。
- 電気柵 …… 動物がなれることのない痛み(電気ショック)を経験させて、
(心理柵) 動物の警戒心により、柵の近寄りにくくさせる。
登ることが可能なサル、クマ、ハクビシンは電気柵が必要。
- 物理柵+電気柵… 物理柵と電気柵を併用した柵。電気柵のみより、除草管理
等しやすくなる利点がある。



活動組織紹介

今回は、広域組織の中から上伊那郡飯島町の『飯島町農地・水・環境保全管理協定』を紹介します。

1. 飯島町の概況

飯島町は、長野県の南部、伊那谷のほぼ中央に位置し東に南アルプス、西に中央アルプスを望む位置にあります。

交通は中央自動車道、JR 飯田線、国道 153 号伊南バイパスなどが町内を縦断し東京、名古屋からの交通の便も非常によいところです。

町の面積は約87km²で、その内 15%に当たる13km²を農地が占め、農業が盛んな農村地帯です。

また、飯島町は、江戸時代には飯島陣屋が置かれ、明治維新後、一時伊那県庁が置かれるなど、地域の政治・経済・交通の要所として栄えてきました。

2. 広域化の経緯

飯島町では、平成 19 年度から町内 4 地区の営農組合組織と町営農センターが一体となって、活動を開始しましたが、当初から 4 地区の農村保全対策委員会の事務処理は、町に事務局(飯島町農村保全対策協議会)を設置して町内一体の活動として運営してきました。

【地区データ】

・取組面積

田	814 ha
畑地	258 ha
合計	1,072 ha

・対象施設

開水路	331.4 km
ため池	5 箇所

・交付金

約 8,490 万円
(維持、共同、長寿命化)

・広域化 平成 24 年度

地域協議会だより

平成 24 年度には、広域化により、現在の「飯島町農地・水・環境保全管理協定運営委員会」として生まれ変わり、文字通り町内一体の取組として交付金の有効活用を図っています。

3. 事務局体制

事務局では、交付金の申請・受納事務、各地区への活動費の配分、活動指導、日当等の活動基準の制定を行い、広域組織としての活動の統一を図っています。また、書類の作成・整備、日当の支払い、長寿命化の設計・積算・発注・管理・検査など多くの事務処理を担っています。



事務局体制は、町の嘱託職員である事務局長と事務員の 2 名となっており、1,000ha の活動の事務処理を一手に担っています。このようなしっかりしている事務局体制が、飯島町の広域活動組織の優れた点であると思います。

広域組織の意思決定を行う運営委員会の状況



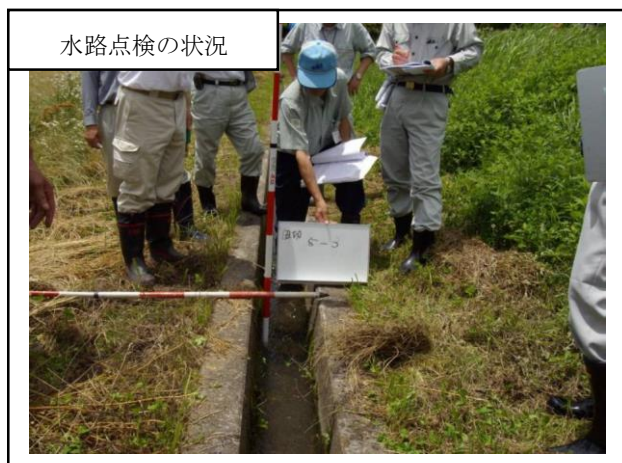
4. 活動の状況

広域活動組織は、飯島地区、田切地区、本郷地区、七久保地区の農村保全対策委員会から構成されています。農村保全対策委員会は、それぞれ地区の「区会」、「水利組合」、「自治会」、「営農組合」が主体で、地区ごとに従来からの活動を展開しています。

飯島町の農地は概ね整備が完了していることから、集落営農も盛んで、農地の有効利用が図られていることが、多面的機能支払制度を効率よく活用できている状況です。

また、専任の事務局員の人材確保により、各地区組織では、事務処理のわずらわしさから解放され、現場での維持活動や共同活動に専念でき、活発な活動ができています。

さらに、長寿命化などの施工では事務局から専門的な助言も得ることができ、効率的な交付金の活用が実現しています。



生態系保全（生き物調査で子どもたちも活動の一員）



5.おわりに

飯島町の広域活動組織は、ほぼ全町を活動範囲としており、各地区の活動状況も事務局体制も理想に近い形で展開されています。

今後も活動を円滑に継続していくためにも、継続は力となりますので、地区間の意思疎通を十分に図って、

地域協議会だより

より良い活動が継続されることを期待するところです。

取材に御協力いただいた事務局、役場の皆様に感謝します。

環境保全（コスモスによる農村の美化活動）



事務局から

今回は、技術研修会・（水路の目地補修・獣害対策）の様子をご報告しました。両会場ともに大勢の皆様にご参加いただき有難うございました。

今後とも各地域の様々な事例を皆様に紹介してまいりますので、よろしくお願いいたします。

■問い合わせ先

長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会

（担当：田中・白石）

TEL 026-219-6351 FAX 026-219-6352

Eメール nagano-tamenteki@wonder.ocn.ne.jp

URL <http://www.nagano-nouchimizu.net/>